

令和8年2月24日

世田谷区立祖師谷小学校
校長 小俣 和也 様

世田谷区立祖師谷小学校
学校関係者評価委員長 石塚昌代

学校関係者評価報告書

令和7年度 祖師谷小学校関係者評価の結果を下記の通り報告いたします。

記

I. 《 学校関係者評価アンケートを通して 》

皆様お忙しい中アンケートに回答いただき感謝申し上げます。

アンケート調査回答の「とても思う」「思う」をプラス評価とし、「あまり思わない」「思わない」をマイナス評価と捉えたところ、昨年度と同様に全般的に児童・保護者・地域から、高い評価を得ることができました。

この評価を通して、祖師谷小学校の地域との連帯感や保護者からの信頼感がより一層高まり、子どもたちの学校生活がさらに充実するよう心から願います。

【 プラス評価の高かった項目について 】 ※児童・保護者・地域の「とても思う」+「思う」%

— 児童 —

- ◇授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする時間がある。 94.9%
- ◇先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている。 94.5%
- ◇先生に指導されたり、注意されたりすることは、理解できる。 93.9%

児童は、先生による ICT を活用した授業や、少人数クラス、教科担任制などによる多様な学びを通して、先生と信頼関係を深めている。児童は、授業の中で考えたことを友達と共感し認め合いながら、自主性を培い意欲的に学習に取り組むことができている。

— 保護者 —

- ◇学校行事は、子どもにとって達成感がある。 95.3%
- ◇学校行事は、子どもにとって楽しい。 93.9%
- ◇本校は、様々なプリントやすぐーる、ホームページなどで、保護者に情報を提供している。 93.4%

保護者は、児童の行事に向けた取り組みや、達成する姿勢を温かく見守り、高く評価している。学校からのお便りの配信など、わかりやすい情報提供が、教育活動への理解を深め、保護者の安心感につながっている。

— 地域 —

- ◇学校行事の内容は充実している。 94.7%
- ◇学校からの様々なプリントや学校公開・道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。 94.8%
- ◇本校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている。 89.5%

地域の方は、学校が地域の存在意義を大切にし、感謝していることを受け、温かく見守ってくださっている。行事を通じた直接的な関わりと、適切な情報発信を通して、地域とともにある祖師谷小学校の姿を引き続き大切に継承して行ってほしい。

【プラス評価の比較的低かった項目について】 ※児童・保護者・地域の「あまり思わない」+「思わない」%

— 児童 —

- ◇学び舎の中学生(千歳中学校)が来たり、自分たちが中学校に行ったりする機会がある。 28.4%
- ◇中学校に関する情報が提供されている。 27.4%

今回アンケート後に中学校との交流があり、昨年度よりは低い評価であるものの、高い比率で改善傾向にある。実際の交流活動を通して中学校を身近に感じる機会を継続し、児童が理解できる環境を整えていくことが望まれる。

— 保護者 —

- ◇本校では、学び舎の中学生(千歳中学校)や幼稚園・保育園との交流や連携が行われている。 18.9%
- ◇本校は、子どもの生き方や将来のことについて、考える授業をしている。 15.1%

保護者からの、学び舎とキャリア教育についての理解は、お便りやキャリアパスポートを目にすることで改善傾向にある。学校と保護者が同じ方向を向いて、子どもたちの成長を支えられるよう、今後もわかりやすい情報発信を継続していただきたい。

— 地域 —

- ◇通学している子どもは、交通ルールなどを守っている。 21.0%
- ◇本校は、安心・安全な学校づくりを進めている。 10.5%

地域の方は、通学する児童の交通ルールに対するモラルが昨年度より改善したものの、安全意識がまだ低いと感じている。児童の安全を守るためにも、来年度も学校からの指導だけでなく、保護者の模範姿勢、地域の見守りにより安全意識を高めて行ってほしい。

【「分からない」評価の比較的多かった項目について】 ※児童・保護者・地域の「分からない」%

- ◇学び舎の中学生(千歳中学校)が来たり、自分たちが中学校に行ったりする機会がある。 児童 21.8%
- ◇本校では、学び舎の中学生(千歳中学校)や幼稚園・保育園との交流や連携が行われている。 保護者 25.2%
- ◇地域の意見に対して、本校は丁寧に説明・対応している。 地域 21.1%

児童、保護者に学び舎の活動内容が浸透してきているが、引き続き情報発信を工夫して理解を深めていってほしい。

地域の方は、学校からの情報提供については肯定的なものの、協議会のような交流の機会が少なく、意見交換や情報共有が少ないと感じている。地域の方が学校へ足を運んで下さる機会を、対話や交流に活用するなどの改善を期待したい。

II. 《 その他の評価と課題 》

今年度は児童の学習に対する意欲の高さがよく現れていた。児童は行事に関して先生方の事前準備やサポートのもと、準備や練習を通して学びを深め、みんなで完成させたことに達成感を得ることができている。5、6年生の児童意識調査からは、少人数クラス、教科担任制の学習面の良さはもちろん、担任以外の先生や他クラスの児童との交流を通して多様な考え方に触れることで学校生活の安心感につながっていることがわかった。のびのびと自己を肯定し、他者を受け入れる環境を学校・先生が整えることができた。

保護者は、児童の実体験やわかりやすい情報提供によって、「学び舎」と「キャリア教育」の理解が進んでいる。保護者にとって教育内容の充実が見える開かれた学校の姿勢を継続していただきたい。

～学校関係者評価委員～

評価委員長	石塚 昌代	(元PTA副会長)
評価委員	笹間 俊彦	(成城学園初等学校副校長)
評価委員	毛受 直子	(新 BOP 事務局長)
評価委員	飯田 しのぶ	(卒業生保護者)
評価委員	福田 伸子	(在校生保護者)
評価委員	長野 友紀	(在校生保護者)